

太田・館林・邑楽地区 第1回 県立高校の在り方に関する検討会

令和8年2月27日

群馬県教育委員会

太田高等学校



1897年創立の普通科男子校

- アメリカNASA研修
- 充実した総合的な探究の時間
「0から1を想像し、1から10を創造」
- SAH (Student Agency High School) 協力校
生徒が「主役」の授業
生徒が主体の学校行事
生徒がデザインする学校生活
生徒による外部活動への参加

太田女子高等学校



1921年創立の普通科女子校

- 三菱みらい育成財団の助成事業に採択（R5～）
- 充実した総合的な探究の時間
- 海外語学研修
- 文科省DXハイスクール指定校
- SAH（Student Agency High School）協力校

太田東高等学校

1982年創立の普通科共学校

- 青藍プロジェクト
自律心と自己教育力を育成
- 単位制【大選択科目】で2年生と3年生が合同で授業
- 群馬デジタルイノベーション
チャレンジ事業
- ぐんまプログラミングアワードIoT部門のファイナルステージ出場



新田暁高等学校



1924年創立の総合学科共学校

- 6つの系列・100余りの科目設定で、個別最適な学び
- 産業教育（農業・工業・商業・家庭・福祉）を融合した実践的な教育
- SAH（Student Agency High School）指定校

太田工業高等学校



1961年創立の共学校。機械・電子機械・電気情報科を設置

- 文科省DXハイスクール指定校
- BBミーティング（県内実業系高校連携）
- 「太工Lab」
 - ・ 最新の開発環境でアプリ開発
 - ・ 作ってみたいをすぐカタチに

太田フレックス高等学校

2004年創立の**定時制課程・通信制課程**を設置している**単位制高校**

- **定時制課程Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ部と通信制課程を擁する単位制高等学校。**
- **生徒一人ひとりの個性に寄り添い、各自のペースで学ぼうとする生徒の意志を最大限尊重するという教育理念**
- **SAH (Student Agency High School) 協力校**



館林高等学校



1921年創立の**普通科男子校**
普通科定時制（共学）を設置

- **海外研修**
アメリカ・ロサンゼルス
- **全国で活躍する部活動**
レスリング部、ボート部
- **館林邑楽地域24kmを回る**
伝統の強歩大会

館林女子高等学校



1917年創立の普通科女子校

- 知を探究し、未来を創造する「館女学」
- 3 2人クラス編成（1学年時）
- アウトプット活動を重視した英語学習
- ボクシング部、ボート部、箏曲部、マンドリン・ギター部など特色ある部活動



板倉高等学校



1951年創立の普通科共学校

- 「キャリア教育優良学校」の文部科学大臣表彰
(地域と育てる全員参加型就業体験)
- ぐんまチャレンジハイスクール指定校
- ドリカムプランによるキャリア教育

館林商工高等学校



1984年創立の**工業科と商業科**を設置している共学校

- 県内唯一の「**商業×工業**」複合型専門高校
- 小×高（しょうこう）連携の学び（食文化体験）
- コミュニティースクールモデル校
- 企業・地域と連携した商品開発

西邑楽高等学校



1975年創立の普通科、スポーツ科、**芸術科(音楽・美術)**を設置している共学校

- 県内唯一の「普通×スポーツ×**芸術(音・美)**」の三本柱がそろう
- レスリング部、女子バレーボール部が全国で活躍
- 芸術科における専門性の高いカリキュラム

大泉高等学校



1912年創立の農業系学科と普通科を設置している共学校

- 特色ある4学科による座学＋実践的・専門的な学び
- レスリング部、植物バイオ・微生物バイオ研究部が全国で活躍
- 第14回イオンエコワングランプリ「内閣総理大臣賞（普及・啓発部門）」受賞



市立太田高等学校

企業連携



1963年創立の**普通科・商業科**
を設置する共学校

- 併設型中高一貫教育校
- 大規模販売実習「百貨市」
- 地元企業・大学と連携した
グローバル人材育成事業
- 環境教育（ISO14001認証）



地区内の公立高校のプロフィール

(R7学校要覧等をもとに作成)

課程：全→全日制、定→定時制、通→通信制

	学校名	課程	R7.3 卒業生 数	進路状況(R7.3卒業生)				特徴
				大学	短大	専門 学校等	就職	
太 田 市	太田	全	271	215	0	0	0	1897年創立の 普通科男子校 。60分6限授業。 「文武両道」・「質実剛健」の校風の振興を図り、21世紀の担い手としての、知・徳・体の調和のとれた人間の育成を目指す。
	太田女子	全	231	214	1	0	0	1921年創立の 普通科女子校 。55分6限授業。 「豊かな人間性の育成」「時代を切り開く力の育成」「しなやかな知性」
	太田東	全	235	207	1	19	0	1982年創立の普通科共学校。 進学重視型単位制高校 。 教育目標「人間性豊かで、知的好奇心にとみ、心身を鍛え、主体的に考え行動できる人間を育てる」
	新田暁	全	151	24	2	62	63	1924年創立の共学校。単位制 総合学科 (6系列)。SAH指定校。 系列：キャリアデザイン、食文化、社会福祉、情報ビジネス、生活文化、機械・電子技術
	太田工業	全	137	21	0	31	83	1961年創立の共学校。 機械・電子機械・電気情報科(産業電気コース・情報コミュニケーションコース) を設置。「地域・社会に貢献できる自立した工業人の育成」を目指す。
	太田フレックス	定	81	6	0	26	36	2004年創立の 定時制課程 Ⅰ(午前)・Ⅱ(午後)・Ⅲ(夜間)部と 通信制課程 を設置している単位制高校。
	〃	通	65	3	0	8	3	R6～「日本語基礎」と「日本語Ⅰ」を開講。日本語指導支援員を配置。
	市立太田	全	268	139	11	65	38	1963年創立の 普通科・商業科 を設置する共学校。 併設型中高一貫校 。 教育目標：確かな知性・豊かな人間性・たくましい心身を培い、高い志をもち、自ら未来を拓く生徒を育成する

地区内の公立高校のプロフィール

(R7学校要覧等をもとに作成)

課程：全→全日制、定→定時制、通→通信制

	学校名	課程	R7.3 卒業者 数	進路状況(R7.3卒業生)				特徴
				大学	短大	専門 学校等	就職	
館 林 市	館林	全	196	154	0	6	1	1921年創立の 普通科男子校 。 目指す生徒像：確かな学力と幅広い知識・教養を身に付けた生徒、人柄に優れ、知・徳・体の調和のとれた生徒、自主・自律の精神を持ち、社会に貢献できる生徒
	〃	定	3	0	0	1	2	1948年設置の 普通科定時制 （共学）。1学年定員40名。 1コマ45分、1日4コマ授業。
	館林女子	全	194	135	9	46	3	1917年創立の 普通科女子校 。 令和7年度から「ホームルーム革命」を掲げ、32人学級を導入。 校訓：自律自治、温雅健康、敬愛親和
邑 楽 郡	板倉	全	59	5	0	14	35	1951年創立の 普通科共学校 。 「ぐんまチャレンジ・ハイスクール」として、基礎・基本を大切にしたい、少人数クラス編成によるきめ細かい授業を展開。
	館林商工	全	152	46	2	58	45	1984年創立の 工業科と商業科を設置 している共学校。R6～コミュニティ・スクール 工業系：生産システム科(機械システムコース・電気システムコース)、建築科 商業系：商業ビジネス科、情報ビジネス科
	西邑楽	全	161	59	16	56	20	1975年創立の 普通科、ｽﾎﾟｰﾂ科、芸術科(音楽・美術)を設置 している共学校。 普通科：大学進学を目的とした教育課程を編成 ｽﾎﾟｰﾂ科・芸術科：授業のおよそ3分の1がそれぞれの専門科目
	大泉	全	146	18	9	62	48	1912年創立の 農業系学科と普通科を設置 している共学校。 農業系学科：生物生産科（園芸コース・ガーデニングコース）、グリーンサイエンス科 （植物科学コース・生物応用コース）、食品科学科

実情：地元公立高校への進学割合は2～4割程度

【頂いたご意見から】

- 「東毛地区は県外流出も多く、こういった形でこの地区を維持していくか。」
- 「地区内の高校は頑張っているが、他地区の高校が選ばれている現状がある。」

【令和7年度地区内出身生徒の進学先割合】

	太田公立	館林公立	邑楽公立	地区内公立計	県内地区外公立	私立	県外	その他
太田出身	36.7	4.2	6.9	47.8	16.0	11.6	16.0	8.6
館林出身	16.2	18.6	23.4	58.2	0.8	8.3	25.4	7.3
邑楽出身	18.7	15.7	23.7	58.1	2.0	9.9	20.0	10.0
地区内出身計	28.4	9.7	13.8	51.9	10.2	10.6	18.5	8.8

【県外】

郡市	流入先	流出先
太田市	公立高校	県外 (国公立高校)
館林市		
邑楽郡		

流出先: 県外 (国公立高校)

流入先: 公立高校

太田市: 32人 (流入), 347人 (流出)

館林市: 18人 (流入), 154人 (流出)

邑楽郡: 12人 (流入), 172人 (流出)

【県内私立高校】

郡市	主な進学先
太田市	県内私立高校 常磐 関東学園大附属 桐生第一、樹徳
館林市	
邑楽郡	

主な進学先: 県内私立高校 (常磐、関東学園大附属、桐生第一、樹徳)

太田市: 251人

館林市: 50人

邑楽郡: 85人

検討の視点例：特色化としての高いレベルの進学校

【頂いたご意見から】

① 「魅力の一つとして、大学進学への実績を上げられる高校は必要である。」

【地区内で大学進学が多い高校の取組例】

- 海外研修
 - ・アメリカNASA研修。ケネディ宇宙センター見学、大学訪問等（太田）
 - ・アメリカロサンゼルス研修。ホームステイ、語学研修、大学訪問等（館林）
- 3年間を見通した探究活動
 - ・令和5年より三菱みらい育成財団の助成事業に採択。各種ゼミを設置（太田女子）
- キャリア教育の充実
 - ・「青藍プロジェクト」を柱に「やる気upプロジェクト」や「みらい学」による探究活動など（太田東）
- 特色ある英語学習（館林女子）
 - ・アウトプットを重視。教科書の内容を「再度語る」Story Retellingなどで実践力を向上（館林女子）

※ 不動岡高校…選択科目第二外国語（中国語、ドイツ語、フランス語）、文理融合型カリキュラム

② 「進学実績の高い東京の日比谷高校や埼玉の大宮高校などを参考にしてはどうか。」

日比谷高校…進学指導重点校（2025年東京大学81名ほか）、SSH指定校(19年目)、

都グローバル人材育成GE-NET20指定校、海外学校間交流推進校

大宮高校…65分授業2学期制、普通科のほか理数科1クラス、埼玉県立御三家の1つ、

さいたま新都心駅から徒歩約10分（県内全域通学可）

検討の視点例：地域内で誰一人取り残さない教育・特色ある学び

【頂いたご意見から】

- ① 「**中学時代に学校に通えなかった子どもや、日本語指導の必要な子どもが地元の高校に通えることが大切。**」
- ② 「**スポーツや芸術に特化した学びも特色化につながる。**」

—現在の取組事例—

- 日本語指導モデル校、実践校
 - ・ 日本語の個別指導と単位認定、支援員の配置等（太田フレックス、板倉）
- スポーツ科、芸術科
 - ・ 幅広い専門科目を設置し、実技を充実。スポーツクラスでは指導者や競技者を目指した進学に対応。芸術クラス（美術コース・音楽コース）では、音楽系美術系進学に対応。（西邑楽）
- 自然環境科、理数科
 - ・ フィールドワーク重視の体験型学習、尾瀬ハートフルホームシステム（尾瀬）
 - ・ ハイレベルの理系学習を実現。スーパーサイエンス講座、筑波研修（桐生）

実情：地域を支える人材の不足



検討の視点例：地域との連携

【頂いたご意見から】

- ①「地域経済の骨格である産業を支えていく高校の学びが必要。」
- ②「地域資源を活用するなど、地域と連携した教育や専門的な教育が必要である。」

—現在の取組例—

○ 技能審査等（R6実績）

- ・ 第1種電気工事士（太田工業、館林商工） ・ FFJ検定特級（大泉）
- ・ 介護職員初任者研修（新田暁）

○ 地域と連携した学び

- ・ 茂林寺沼の保全活動、ヨシを使ったストロー開発とキクラゲの生産（大泉）
- ・ 地元企業との連携による災害対応大型キッチンカーの製作（太田工業）
- ・ 「百年小麦」を使った脱穀機製作と小学生へのうどん打ち教室（館林商工）
- ・ 地元食材を化学や微生物の視点から探究。学校設定科目「郷土料理」（新田暁）
- ・ チャレンジタイム（月曜午後）地元の企業等で就業体験やボランティア（板倉）

○ 地区外高校の例

- ・ 地元の教育人材育成のための学校設定科目「教職基礎」地域の小中学校等と連携（新・沼田）

実情：15年後には1学年当たり平均2.4学級となる可能性も

【頂いたご意見から】

- ・「単純に募集定員を減らすだけでは体をなさない学校も出てくる。」
- ・「加速する少子化の中、3年5年のうちに方向性を見出さないと後手に回ってしまう。」

学級数及び学校数の見込み(全日制・フレックス)

(学級数はR5～R7の地区別出身者の割合をもとに算出)

	高等学校名	学科等	令和8年	令和13年	令和22年
	学校数		13校	—	—
太田	太田	普通科	6 学級	61学級	47.9学級
	太田女子	普通科	6 "		
	太田東	普通科(単位制)	6 "		
	新田暁	総合学科	4 "		
	太田工業	工業系学科	3 "		
	太田フレックス	普通科(午前/午後/夜間部)	6 "		
	太田市立太田	普通科/商業系学科	7 "		
館林	館林	普通科	4 "	R8 平均4.7学級	31.4学級
	館林女子	普通科	4 "		
邑楽	板倉	普通科	2 "	R22 平均2.4学級	
	館林商工	商業系学科/工業系学科	4 "		
	西邑楽	普通科/スポーツ科/芸術科	5 "		
	大泉	普通科/農業系学科	4 "		

検討の視点例：公立高校の数

【頂いたご意見から】

・「生徒数の客観的な数字を見ると、公立高校の在り方の検討を行う必要性を強く感じる。」

○ 入学見込者数によるシミュレーション（R5～R7の地区別出身者の割合をもとに算出）

	R8				R13				R22		
	学校数	学級数			学校数	学級数			学校数	学級数	
		合計	平均			合計	平均			合計	平均
太田・館林・邑楽 地区	13	61	4.7	→	13	47.9	3.7	→	13	31.4	2.4
					12		4.0		12		2.6
					11		4.4		11		2.9
					10		4.8		10		3.1
					9		5.3		9		3.5
									8		3.9
									7		4.5
		6	5.2								

検討の視点例：公立高校の配置

【頂いたご意見から】

- 「単純に学校数だけ減らしたのでは、通学できる範囲に高校がなくなって困る生徒が出るのではないか。」

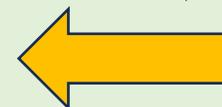


検討会で上がった課題・テーマについてワーキンググループ（WG）を設置して原案作成を行い、その案をもとに全体の地区別検討会で検討する。

地区別検討会

（進行：座長）

- 課題の洗出し
- WG案の検討
- 必要に応じアンケート等実施
- 課題別に最終案を協議
⇒ 生徒、地域の未来にとって、どのような高校が必要かについて県教委に提出



...

WG

- 検討会に向け原案作成を行う

進行：事務局

WGメンバー（10名～20名程度）

課題、テーマに応じた関係者により構成

全体事務：県教育委員会事務局
高校教育課